

チンギス・カン年表

年	季節	年齢	出来事
1161	夏		モンゴル部族2代目のカン、アンバカイ、タタルの策略で殺される。
	初冬		イエスゲイはホエルンを強奪し、妻とする。
1162	春		3代目のカンとしてイエスゲイの叔父クトラが選ばれた。
1162	冬		タタルへの復讐戦でイエスゲイは敵将テムジン・ウゲを捕らえて帰って来た。
		1	丁度その時、テムジン（チンギス・カン）が生まれた。
1168			タタルと戦い続けたクトラ死去。
1169	春		アンバカイの三男カダン・タイシ死去。
	秋冬		イエスゲイはトオリルを助けてグル・カンを追い出した。
1170	夏	9	イエスゲイ、テムジンの嫁として、デイ・セチェンの娘ボルテを決める。 イエスゲイは帰路、タタル部族の謀略により死去。 母ホエルンに、息子テムジン、カサル、カチウン、テムゲ、娘テムルン、 それと、別妻親子が残された。
1171	春	10	4代目のカンとして、タイチュウト氏族のアダルが選ばれた。 イエスゲイの下に居た部衆は、イエスゲイの兄弟が引き継いだ。
1172	春	11	ホエルンはジャムカ母子と共にケレイト部族に行き、トオリル・カンに保護を求めた。
1176	春	15	テムジン、ジャムカは成人となり、一家は故郷に帰った。 アダル・カンの子、タルグタイに襲われた。
	秋		タルグタイの嫌がらせを避けるために、故郷を離れてココ・ノールに移った。
1178			アダル死去。5代目カンにイエスゲイの従兄弟、ジョチが選出された。
1179	夏	18	テムジンはボルテと結婚した。ブルギ河岸へ移った。 ジョチ・カンに故郷への帰還と父の持っていた部民の取り返しを依頼する。
1180	秋		メルキトに襲われ、ボルテを奪われる。
1181	夏	20	ジョチやトオリルの助けを借りてボルテを奪還。帰還の途中生まれた子に ジョチと命名。
1182		21	一家は故郷であるオノン河上流域に帰った。
1184			ジャムカと再会し、しばらく共に暮らす。
1185			ジャムカと別れた。
1186		25	サチャ・ベキ、アルタンら、キヤト氏族の若手とココ・ノールで会合し、 今後の協力を申しあわせた。
1188		27	テムジン領域の飛び地であるサーリ・ケールに、ジャムカ一族である タイチャルが行き馬を盗んだが、見つかって殺された。ジャムカは怒り テムジンを攻めた。テムジンはダラン・バルジュトで応戦するも負けた ジョチ・カン達はテムジンを支持。ジャムカをタイチュウト方面に追放。
1190		29	ジョチ・カン死去。しかし、氏族間対立で後継のカンを決められず。 しかし、氏族間対立で後継のカン決められず。 ケレイトのトオリル・カンは弟のエルケ・カラに攻められて西夏に救援を求めに行つた。
1191		30	
1192		31	サチャ・ベキと共にジャア・ガンボを支援してケレイトに向かった。 メルキトが攻めていたので、戦って侵入を防いだ。
1193		32	トオリルが窮迫して帰ってきたので迎えに行き、援助した。
1194		33	ケレイトと共にメルキトと戦い、ケレイト旧領を奪い返した。
1196	春	35	キヤト氏族は単独でテムジンを新たなカンに選出した。 金軍がタタル部族を追ってきたのでトオリルに伝え、共同でその一派を 滅した。金国との協力関係が出来た。 トオリルには王、テムジンには招討使の称号が与えられた。 テムジンの参陣要請に応じなかったサチャ・ベキ兄弟を討った。 彼らをケレイト領北方で滅した。
1196	夏		

1197		この頃、ジャムカが金国を侵犯した。
1198		37 オン・カン（トオリル）はメルキト領深くまで侵入し、大いに打ち破った。
1199	秋冬	38 オン・カンと共にナイマンのブイルク領を荒らした。
1200	秋冬	39 オン・カンと共にタイチュウト領を併呑した。
	冬	タタル、コンギラト等の諸部族連合をブイル湖近くで打ち破った。
1201	春	40 敗残の諸部族はジャムカと合流し、彼をグル・カンに推挙した。
1201	秋冬	ダラン・ネムルゲス地方のタタルを制圧した。
	冬	ジャムカ率いる連合軍をカイラル河近くで打ち破った。
1202	春	テムジン単独で、ウルクイ・シルケルジト地方のタタルを制圧した。
1202	冬	41 クイテン（現ダルハン）でナイマン・メルキト連合軍を破った。
1203	春	42 オン・カン親子と不和になり、攻められて旧タタル領に逃げた。
	秋	テムジンはジェジェル丘のオン・カン親子を奇襲し、追いやった。
1203	冬	42 ジャア・ガンボの助けを得てテムジンはケレイト部族を吸収した。
1204	秋	43 攻め寄せてきたタヤン・カンのナイマン軍をナクウ山に破った。
	冬	メルキトに侵攻し領土を収めた。トクトア・カンは逃げた。
1205		44 西夏領の北辺を犯し、人民とラクダを得た。
1206	春	45 テムジンはモンゴリアのほぼ全ての部族をまとめ、チンギス・カンの称号で呼ばれるようになった。
1206	夏	45 残存していたブイルク領に侵攻し、ブイルクを捕らえた。
		逃げ込んでいたタヤン・カンの息子グチュルクとトクトアは西に逃亡した。
1207		西夏のウラカイ城などを攻めた。
1208	冬	47 アルタイ山脈を越え、キジルバシ湖でメルキトのトクトアを殺した。
		グチュルクや残存メルキト人はカラ・キタイ方面に逃げた。
1209	秋	48 西夏を攻め、首府を水攻めにしたが失敗した。
	冬	10年以上金国に協力してきたが、暗黙な衛紹王が皇帝になった。 それを聞き、断交を決意した。
1211	春	50 ウイグルの王、カルルク部族の王が帰順してきた。
	春	先祖への復讐を誓い、金国攻撃を開始。
1211	夏	野狐嶺、烏月營などの要衝を抜いた。
		息子達は大同方面を荒らした。
1212		51 金庫の都、中都に至る方面を攻めた。
		契丹人、耶律留歌が帰順した。ジェベが東京城を落とした。
1213		52 中都に向かう城市を落とし居庸関に迫った。
		本軍は紫荊関から迂回して居庸関を落とし、中都に迫った。
		中都を囲み、三軍に分けて河北一帯を荒らした。
1214	春	54 金国との和議がなり、中都の囲みを解いた。
	夏	金国皇帝は中都を捨て汴京に移った。和議違反として、モンゴルは再び中都を囲んだ。
1215	夏	55 中都はついに開城し、モンゴルの手に落ちた。
1216	春	河北をムカリに任せ、チンギス・カンは本拠地に帰った。
	冬	スプタイを遣ってメルキトの残党を討たせた。
1217		スプタイがメルキト残党を討ち取り、ホラズム王のアラー・ウッディーン軍と戦った。
1218		ジェベはグチュルク討伐に向かい、バダフシャン地方で殺した。
		モンゴルが送った使節団がホラズムで殺された。
1219	秋	モンゴル軍はイルティシュ河流域に集結し、西域に向かった。
	冬	オトルルに到着。軍を4つに分け、自身はサマルカンドに向かった。
1220	春	60 ブハラを落とし、続いてサマルカンドを攻略した。
	夏	サマルカンド南方の平原で休養した。
	秋	アム河を渡り、一帯を攻略した。

		アラー・ウッディーンは逃げて、レイ（現テヘラン）に向かった。 更に逃げてカスピ海の島アバスクンに至り、そこで死んだ。 その息子ジャラル・ウッディーンが南部のガズニで勢力を回復した。 シギ・クトク軍がパルワーンでジャラル・ウッディーン軍に敗れた。 本軍は征討に向かい、バーミヤンを攻略後、インダス河に追い詰めた。 ジャラル・ウッディーンはインダス河を渡って逃げた。 ジェベとスプタイの二将軍は本軍と別れてイラン方面を攻略していたが、 カスピ海添いに北に向かった。
1221	春夏	
1222		二将軍はコーカサス山脈を越えてキプチャク族を討った。
1223	春夏	二将軍は現在のウクライナを目指し、ルーシとキプチャク族連合軍を カルカ河からドニエプロ河までの戦場で破った。
1224		西域遠征を終え、モンゴル軍は帰路に着いた。
1225		チンギス・カンは本国で休養した。
1226	春	長く抵抗している西夏を討つべく進軍し、首府を囲んだ。
1227	春 夏 旧暦7月	66 首府の攻囲を部下に委ね、積石洲攻撃に向かった。 西夏は降伏し、首府を開城した。 中国の甘肃省の六盤山で死去。後、本国で葬儀が営まれた。